

香川大学教育学部からの出前講座③（3年） を実施しました

9月2日、香川大学教育学部から坂井聡先生をお招きし、「障害があるとはどういうことなのか」というテーマで、教育創造コースの3年生にご講義をいただきました。

最初に、生徒は、坂井先生からの以下のような問いについて自問自答してみました。



問1 あなたに障害はありますか？

問2 障害のある人とはどのような人のことでしょうか？

問3 自立とは何ですか？

問4 障害を乗り越える、克服するということはどういうことだと思えますか？

また、「**障害、障がい、障碍、しょうがい**」の中で、どの表記がよいかについても考えてみました。

そして、「障害」を「活動の制限や参加の制限」としてとらえ、「特別なものではなく誰もが持つもの」としてとらえることの大切さについて気づくことができました。

そして、将来、教師として学級経営をする上で留意すべき視点についても教えて頂きました。

何らかの生きづらさを感じている

- 生きづらさを解決するの
 - 個性がある
 - その子の可能性を見つける
 - 集団における配慮ができる生徒になる
- 出っ張った角は削らない
 - 角を生かすことができれば
 - 孤立させないようにするには（困ったら他人に頼ってもよいよ）
- 本人も保護者にも
 - そうなんです
 - ちょっと変わっているんです
 - でも大丈夫です

● 目立たないことが重要？

- パーツとして機能させてきた社会
- クラスの中でもパーツとして機能することが求められる
- システムありきのクラス
- 他人と違わないようにすることが美德
- 画一的なクラス経営を変えていく
 - 個別化される教育ニーズに対応できるか？
 - 平均値を求めるところから変えていく
 - 相対評価から個人内評価への転換を図る



坂井先生の「環境を整えば障害は無くなる」、「環境を作るのは自分たち」、「みんなが参加できる環境を作る」というメッセージは、胸に響きました。

これらは、個人の心がけとして、今日から、今から、このクラスから、始められることです。

支援の手を相互に差し伸べ、障害が障害でなくなる世の中を作っていきたいと強く思いました。

今日は本当にありがとうございました。